

JA全農えひめ情報 みくら〜ど

■特集

愛媛県と全国のTAC活動の状況と今後の取り組み

■JA直売所めぐり

おいでな菜家 ゆやま・ひさえだ 〜(株)松山生協〜

2

2013・February





「甘平」



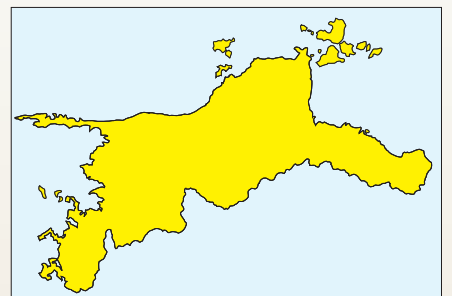
かんぺい 甘平選果 目あわせ会 (愛媛県全域)

J A全農えひめは、1月10日、愛媛オリジナルの新品種「甘平^{かんぺい}」の出荷を前に、ブランドイメージの維持・確立に向け、「甘平選果目あわせ会」を開きました。

「甘平」は、愛媛県立果樹試験場（現・愛媛県果樹研究センター）で開発され、爽やかなシャキッとした食感と甘さが高い評価を受け、J A・生産者から期待が大きい品種。平成19年に品種登録され、県内でのみ栽培されており、1月中旬から出荷が始まり、2月に出荷最盛期を迎えます。

県内J Aの平成24年産の生産予想量（24年12月時点）は661t（前年比125%）と生産量が拡大傾向の中で、J A全農えひめでは、24年度から愛媛オリジナル品種の「紅まどんな」と「甘平」について、品質のバラツキによって消費者・販売先のブランドイメージを損なわないよう、モデル園の設定と出荷前の目揃え会を開催し、品格・価格に見合った商品を提供する取り組みを進めています。

「甘平選果目あわせ会」には、J A・市場担当者、生産者など約30人が出席。出荷要領と選果基準を確認し、ブランド確立に取り組んでいます。



あぐり〜ど

February 2013

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



年にわずかに数回の、降り積もったドカ雪が珍しくて、うれしくて。かき集めてつくった小さなかまくら。そこはまるで日常から切り離された、子どもたちの秘密基地。しんと凍えそうな夜に七輪を運び込んでぜんざいをふるまうお母さん。お父さんには内緒かも。

子どもたちはあたたかな冬の記憶を心のポケットに詰めこんで、大きく成長していきます。

●表紙：かまくらはら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.146

甘平選果目あわせ会

(愛媛県全域)

2

〈特集〉

愛媛県と全国のTAC活動の状況と今後の取り組み
**TAC活動を通じて担い手を支援し
産地の活性化をめざします**

7

統計BOX

8

ふるさと ESSAY VOL.214

酒造り人生の中で

中城 英敏さん

10

TOPIC NEWS

13

なんでもBOX

14

JAふるさと自慢Vol.146「直売所めぐり」

おいでな菜家 ゆやま・ひさえだ

～(株)松山生協～

16

READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉**白ネギ**

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

TAC活動を通じて担い手を支援し 産地の活性化をめざします。

「TAC」は、「とことん会ってコミュニケーション」を合言葉に、地域農業の担い手に向くJA営農担当者の全国統一の愛称です。愛媛県内では、現在8JAでTACが活動し、JAの総合力を活かし、訪問・提案活動等を通じて担い手の所得向上と産地活性化に取り組んでいます。

JA全農えひめは、「生産・販売・購買一体事業」の推進にあたり、愛媛県TACチームとして、TACの活動支援、TACを核としたコアモデル事業の普及拡大と産地基盤の維持をめざしています。今回は、愛媛県と全国のTAC活動の現状・動向と今後の活動について紹介します。

愛媛県TACチームの現状

愛媛県内では、平成24年度4JAが加わり、8JAがTAC活動を行っています。

JA全農えひめでは、「生産・販売・購買一体事業」の推進にあたって、TAC取り組みJAに対して役員・部課長・TACによる週・月ミーティングの定例開催を基本に、県域

TAC（JA全農えひめ職員）も同席し、JA内部の情報共有化を図ることで、担い手個々の課題解決に取り組んでいます。JAの定例会には愛媛県TACチームとして、「生産・販売・購買一体事業」の考え方を基礎に相互研鑽を図っています。また、「生産・販売マッチング」を大きなテーマに掲げて、担い手の所得向上をめざしています。

TACとしての総合力発揮 のための相互研鑽！

昨年11月、JA全農主催の「TACパワーアップ大会2012」には、全国から約520人、愛媛県TACチームからも29人が参加しました。大会では、愛媛県における担い手に対するTACの訪問実績や「生産・販売マッチング」等の取り組みが評

価され、J AうまがJ A表彰、T A C 2人が個人表彰を受賞しました。

県内のT A Cからは、「他県のT A Cとの意見交換や先進事例を聞くことで、自らのJ Aで課題解決を行うための大きなヒントが得られた」と今後のT A C活動の展開にさらなる期待が持てる声が多く聞かれました。

また、愛媛県T A Cチームは今年度、各J Aの基幹品目を取り上げ、その栽培及び防除等の技術研鑽を図る「愛媛県T A C相互圃場研修会」(計5回)を開催しました。互いに情報交換を行い、愛媛県T A Cチームの総合力を発揮することが本研修



▲パワーアップ大会分科会の様子

会の目的で、生産面だけでなく、販売面に関する手法についてもT A C個々がスキルアップするための重要な場となっています。

T A Cによる農産物の 知名度向上対策

J A全農えひめとT A C取り組みJ Aでは、マーケティング調査を実施することにより消費者と生産者の懸け橋になるよう努めています。このことは農産物の知名度向上にもつながっており、情報がフィードバックされた担い手からも好評です。

例えば、J Aうまは、今年度まで3年連続して京都で販売促進活動を行いながらマーケティング調査を実施し、里芋「伊予美人」の知名度向上に貢献しています。1年目は約9%だった伊予美人の知名度は、2年目約20%、3年目の今年度調査では24%と、3年間で15%の知名度向上に成功しています。

通常一般小売店での販促は、販売員を活用することが多く、J A職員や生産者が直接店舗の売り場に立ち、消費者と直に触れ合いながら販促することは多くありませんが、こ

れまでの調査の結果、産地からの販促を消費者に直接繰り返せば、知名度の向上も図られ、消費者の購買意欲も駆り立てられることが分かりました。

このような活動は、県内の他のT A C取り組みJ Aに波及しており、J A西条と周桑は昨年12月末に帰省客をターゲットに、高速道路のサービスエリアで試食を含めた消費者嗜好調査を実施しています。

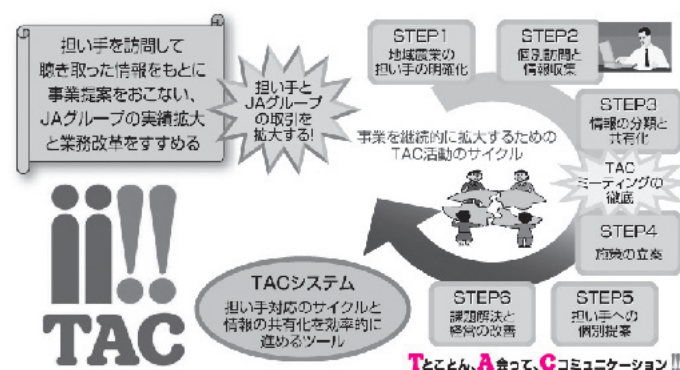
今後の取り組みについて

今後は、「生産・販売マッチング」を着実に進めながら、トータルで農業を推進していく体制をT A Cが担い、頑張る担い手を支援する体制づくりを行い、担い手との信頼関係を密なものにしていきたいと考えています。

特に担い手の皆さんからは、「T A Cがいないとウチの経営は成り立たないよ」と言われる活動をめざしつつ、愛媛農業が活性化していく農業経営の方向性を示していきたいと考えています。愛媛農業をけん引するT A Cに対するご支援・ご協力をよりしくお願いします。



図2 TAC活動6つのステップ



TACは新作物の提案や新たな販売チャネルの開拓などを通じて担い手の所得向上を支援と地域農業の発展をめざし活動を行っています。

TACの活動

全国のTACの活動と愛媛の活動の特徴について

JA全農 営農販売企画部TAC推進課

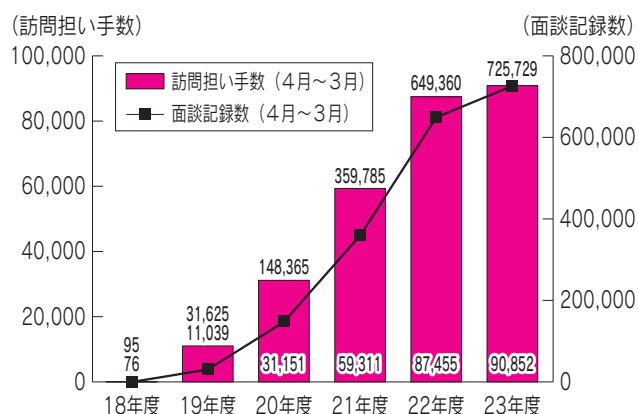
中国四国担当 小関 元

表1 TACの活動状況

項目	合計	東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
JA数①※	601	81	180	94	72	93	81
TACシステム入力JA数②	293	64	93	36	36	46	18
活動普及率(&)②/①	49	79	52	38	50	50	22
TACシステム入力TAC数	1,593	391	518	177	167	234	106
訪問担い手数	91千	28千	27千	8千	12千	10千	6千
面談件数	726千	160千	249千	100千	90千	84千	43千

※TACシステム平成23年度入力実績

図3 訪問担い手数と面談記録の推移



で、①「担い手の選定」、②「情報収集と経営の把握」、③「JA全体での課題共有」、④「課題解決のための施策立案」、⑤「担い手への個別提案」、⑥「課題解決と経営の改善」という6段階に設定し、担い手の課題を組織として解決していきます(図2参照)。

TACの全国の活動状況

全国293JA・1,593名のTACが、9万1千戸の農業経営者へ、訪問・面談活動を年間約73万回行っています。全国でTACの活動普及率は49%まで達し、中四国のTAC活動普及率は50%となっています。(表1参照) また、訪問担い手数と面談記録数については取組み開始から年々増加しています(図3)。

表2 2012TACパワーアップ大会受賞JAの実績の伸び

	販 売			購 買			STEP 進展度
	23年度の対 象担い手の 販売高シエ ア（対象担 い手／J A 全体：％）	販売高伸び率 （23年度／22 年度：％）		23年度の対 象担い手の 購買高シエ ア（対象担 い手／J A 全体：％）	購買高伸び率 （23年度／22 年度：％）		
		J A 全体	対象 担い手		J A 全体	対象 担い手	
A農協	21	100	107	8	103	108	6
B農協	30	118	137	27	103	175	6
C農協	38	122	127	35	94	97	6
D農協	77	114	112	78	107	109	6
E農協	3	99	107	2	97	106	6

全国の先進的な取り組みについて

昨年11月に横浜で開催した「TACパワーアップ大会2012」では、優れた団体が受賞するJA表彰に5団体が選ばれました。

その他、米の集荷を促進する米集荷対策とTAC個人の表彰が行われました。JA表彰の取組内容は以下のとおりです(表彰JAの実績については表2を参照)。

○長崎県 JA島原雲仙
(全農会長賞)

JA未利用・低利用の担い手のJA出荷の実現や、受益農家の利用料で収支を賄う農作業労働力支援隊「農援隊」の立ち上げ、農援隊卒業生に対する就農サポート、後継者の花嫁対策等や地域農業戦略の策定・実践等。

○青森県 JA津軽みらい

関係部署と連携した土壌診断とZBFM(営農計画策定支援システム)活用による新規作物(トマト・アスパラガス等)提案等。

○宮城県 JA古川

状況に応じた米の庭先集荷等の実

現、関係部署と連携した園芸品目作付に関する意向調査の実施と調査結果に基づく個別提案に取り組み、地域の園芸生産拡大を実現等。

○滋賀県 JAGRIN近江

JA出資法人の立ち上げ、法人同士の連携やJAとの情報交換の場を設け、JA事業や施設の活用促進、契約加工用キャベツ産地拡大事業等、地域の生活者と触れ合う地元でのマルシェ開催等。

○愛媛県 JAうま

担い手から要望されていた地域特産物である「里芋」の作業軽減化に取り組み、栽培面積9%増、作業時間22%短縮、作業体系を管内の25%まで普及。

また、米の刈取時期についてJAライスセンターへの搬入集中を分散させるための新品種導入、マーケティングリサーチ、販促活動等を実践した等。

愛媛県のTACがすすめる「生産・販売マッチング」

平成23年度、愛媛県ではTACが生産と販売をマッチングする取り組み事例が16事例あり、全国一の実例

◆特集：愛媛県と全国のTAC活動の状況と今後の取り組み

数となっており、このことは愛媛のTACと県本部の連携による企画力の成果といえます。

具体的な取り組み内容としては、新規での業務用トマト、きゅうりの提案、パッケージ開発、商品開発、ブロッコリー、キャベツ、特別栽培農産物の商品開発、たまねぎの付加価値販売、果実加工業者への新規提案、規格外農産物の加工利用、野菜契約栽培等があります。

愛媛県TACチームに対しては、これらの取り組みを継続・発展させることと、それらの枠を超えた新たな



▲JAうまが銀座三越で行った「みのりみのるマルシェ」

分野の課題解決を行う事が期待されています。

今後の活動について

JA全農TAC推進課としては3年後のTACのあるべき姿として次の2点を目的とし、TACシステムの管理、各種研修会の開催、TACパワーアップ大会の開催等の支援活動を行っていきます。

①担い手支援と地域営農振興

TACが、地域農業の核となる担い手農家としっかりとした信頼関係を結び、担い手個々の経営問題を的確に捉え、所得向上に結びつく事業提案をJAの総合力で実施し、地域営農ビジョンを達成する。

②JA事業の拡大

TACの活動を通じて、JAの事業改善、部門間連携等を促進するとともに活動の事業効果を的確に把握し、担い手の利用率向上によりJAの事業実績を向上させる。

生活者と販売者向けの取り組みを展開中

JA全農営農販売企画部では、生

産者への対策が必要なのはもちろんですが、実際に農産物を食す、生活者の国産農畜産物への理解も不可欠であると考えています。

そこで販売者に向けては「国産農畜産物商談会 TACの店」で新たな販路拡大を見据えた出展支援を行い、生活者に向けては「みのりみのるプロジェクト」を立ち上げ、TACや担い手のこだわり生産物や加工品をアピールし、消費の中心である大都市圏を中心にJAのファン作り、販路の開拓、販売のマーケティング等を行い、地域の生活圏へフィードバックし、地元の地産地消にもつなげていきます。

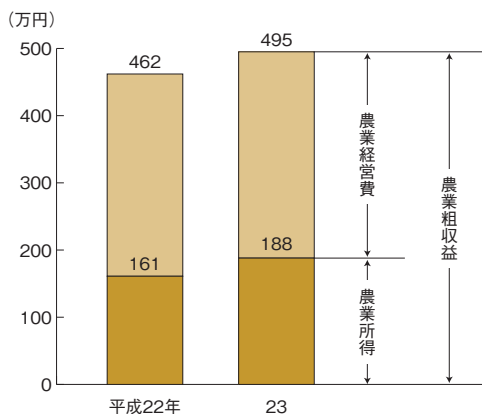
実際に平成24年11月24日には、JAうまが生活者に愛媛の本当においしい旬を味わってもらうため、銀座三越にて「JAうまのみのり」を開催し、「芋炊き」「芋めし」「蛇口からみかんジュース」などで生活者の心をつかみ愛媛のファンを増やしました。

今後もJA全農は組織の総合力を活かし、JAのTACと共に担い手の意見を聞きながら、愛媛県および全国の農業の発展のために真摯に取り組んでいきます。

統計BOX

1 経営体あたりの農業粗収益は7.1%増加(愛媛県) — 平成23年個別経営の営農類型別経営統計(果樹作経営)調査結果の概要から —

図1 農業経営収支の推移(1経営体当たり)

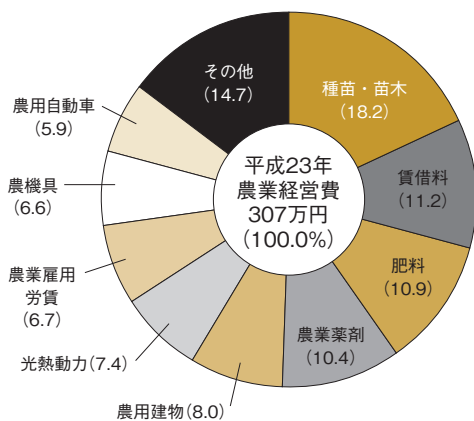


愛媛県における果樹作経営(果樹の販売収入が他の営農類型の農業販売収入と比べ最も多い経営)1経営体あたりの農業粗収益は495万円で、前年に比べて33万円(7.1%)増加しました。そのうち、果樹収入は436万円で、前年に比べて48万円(12.4%)増加しました。これは、温州みかんが表年に当たり価格が低下したことにより収入が減少し

果樹収入はその他かんきつ等の収入増加により増加

果 樹は愛媛県の重要な基幹作物です。今月は、愛媛県で果樹作経営を行っている個別経営の平成23年農業経営収支をみていきます。

図2 農業経営費の構成割合(1経営体当たり)



農業経営費の構成割合は、種苗・苗木の占める割合が18.2%(成園

**農業経営費のうち、
種苗・苗木がトップ
(1経営体当たり)**

この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は188万円で、前年に比べて27万円(16.9%)増加しました(図1)。

たものの、その他かんきつ等の収入が増加したためです。
一方、農業経営費は307万円で、前年に比べて6万円(1.9%)増加しました。これは、賃借料、農業雇用労賃、農業薬剤等の費用が前年に比べて増加したためです。

果樹産地に対する国の主な支援策のご紹介

果樹経営について、生産者の所得の維持・向上を図るとともに、消費者ニーズに的確に応えるため、産地の販売戦略に即した付加価値の高い優良品目・品種への転換を図ることが重要な課題となっています。

産地においては、園地整備が遅れ、高齢化も進展するなど生産基盤が弱くなっています。さらに資材費高騰や価格の下落等により農業所得が低下し収益性が悪化していることから、未収益期間を伴う改植が進まない状況となっています。

このことから、農林水産省では優良品目・品種への転換、園地整備、労働力の確保など前向きな取組を行う担い手や産地への支援として「果樹経営支援対策事業」や、改植後の未収益期間に対する支援として「果樹未収益期間支援事業」などを行っています。

これらの事業についてのお問い合わせは、中国四国農政局生産部園芸特産課(電話:086-224-4511(代表))へお願いします。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ

の減価償却額を含む)で最も多く、次いで賃借料が11.2%、肥料が10.9%、農業薬剤が10.4%となっており、これら4項目で全体の半分以上を占めています(図2)。



酒造り人生の中で

平成9年に出品した当人が一番驚いた全国新酒鑑評会の金賞受賞。今まで遠くから眺めていた金賞蔵は、意外と近いところにあるのかもしれないと思えました。県内の同規模の小さな蔵にも刺激を与えたようでもありました。近いと思えたなら、もうひと踏ん張り、と、努力が加速したのはでないでしょうか。

酒造りに欠かせない微生物の一つに酵母こうぼがあります。他府県では競うように独自の酵母を開発する中、未開だった愛媛県でも先輩たちが行政へ働きかけ、県工業技術センターで愛媛酵母「EKE-1」イーケーワンが誕生。ある年には県内10数蔵が金賞を受賞し、全国でも上位に位置づけられるほどの追い風となりました。

鑑評会では入念に複数回の審査を経て最終結果が発表されますが、なかには「該当外の蔵の方がいいのでは」という方もいらつしやいます。酒に優劣をつけるのはとても微妙なものがあります。

若い頃に、鑑定官の先生方に教わり

利き酒をし、「良い酒」を学びました。
※普通酒ふつうしゅしかない時代です。「普段接している酒が一番良くて、こんなにしっかりとしていない酒は良くない酒」と思えば、先生の判断はその酒が「良い酒」でした。軽やかで香りがある、今でいうところの吟醸タイプの酒です。指導を受けつつ成長をしていきました。

当時は特級、一級、二級という級別制度で酒は評価されました。特に酒のセールスポイントはなくても、審査で一級に通ればお墨付きのグレードとして通用し、特別に吟醸を造ってどうこうということはありません。

平成元年、級別制度が廃止となりました。それまでの酒の概念や価値観が一変します。「どういう道を歩むか」「納得してもらえる品質保証やアピールが必要」など、いろいろな機会で行われました。

普通酒をやめよう。本醸造酒の蔵として歩みはじめました。

酒造りは酒母しゅぼをたて、麹菌こぎ菌を増殖させ、三段仕込みを経て、完全熟成した

中城 英敏

HIDETOSHI NAKASIRO

中城本家酒造合名会社代表。愛媛県酒造組合・愛媛県酒造協同組合理事長。

西予市城川町出身。昭和25年8月15日、中城本家酒造合名会社の長男として誕生。小学校4年生より松山で過ごす。東京農業大学醸造科を卒業後、帰省し家業を手伝う。昭和60年より製造責任者、平成16年より4代目代表。平成22年より愛媛県酒造組合・愛媛県酒造協同組合理事長に就任し、現在は2期目。県内46蔵元のリーダーとして酒蔵の活性化に取組んでいる。

趣味は、若いころより多種多様な日本酒を嗜む。高校時代に培ったサッカーが、地元での人のつながりに役立ち、地元中学校でサッカーを指導したことも。他、スポーツ観戦。座右の銘は啐啄（そつたく）。

中城本家酒造合名会社は創業明治31年。県産米と裏山の湧水を使用した日本酒（大吟醸・純米大吟醸、吟醸、純米など）を製造。銘柄は「城川郷」。平成9・11・21年、全国新酒鑑評会金賞受賞。西予市城川町嘉喜尾1319、TEL0894-82-0146。

▶軒下に緑の杉玉が吊るされると初
しぼりの証し。今年の中城本家酒
造の新酒完成は2月半ばの予定



醪もろみを搾り、酒粕さけがしと分かれて新酒となり
ます。時代は移り、周辺環境は変わり、
工程の機械化など工業技術は進化をし
ても、酒造りそのものの基本的な工程
は今も昔もなんら変わることはありません。
私は「酒を造らせてもらっている」
という意識に変化はありません。酒造
りは一人ではできず、微生物の働きと
チームワークによるもの。「和醸良酒」
という言葉がありますが、調和のとれ

た笑顔のたえない職場環境が味にも反
映され、良い味を醸します。私は製造
責任者ですが、特に職人技を持ち合わ
せているわけではなく、杜氏とうじという意識
もありません。一番の仕事はスタッフ
に気持ち良く働いてもらうこと。酒に
ついても「自分の造った酒」と思った
ことはなく、それは「うちの酒」なの
です。1本1本を大切に造り、万が一
にも思い描く酒とならなくても、それ
をきちんと表に出して、後は消費者の



判断にゆだねました。もしかしたら、
「しょうがない、今回はこれで付き合っ
てやろうか」とお付き合いをいただい
た消費者の方もいたのではないでしょ
うか。振り返れば40年になります。

愛媛県酒造組合の理事長に就任して
3年目になります。年に一度、東京で
行われる日本酒フェアでは愛媛の酒
が一番人気のブースになってきていま
す。前任者から引き継いだことの一つ
に、スペイン市場開拓も視野に、愛媛
の地酒の統一銘柄「marl」とスペイ
ン料理とのマッチング・イベントなど
を行っています。いまだかつて組合単
位での海外視察など前例のない出来事
です。組合員46社全員一致とはいきま
せんが、異論は切り捨てるのでなく、
丁寧に議論を深めて納得を得、今の時
代だからこそ、やるべきことをやって
いかなければと思っています。たとえ
ば、石鎚酒造さんはANAの国際線の
ファーストクラスでの日本酒に採用さ
れました。そうしたことを側面からで
も応援し、また組合員にフィードバッ
クできる体制にもっていきたい。愛媛
の酒を活性化させて、仲間を減らすこ
となく、前を向いて進んでいくのが組
合の使命ではないかと考えています。

※普通酒：酒税法において、特定名称
酒（吟醸酒、純米酒、本醸造酒）以
外の清酒を指す。

●がんばれ受験生！『愛媛いよかん』＝いい予感 寺小屋グループに協賛！受験生に愛媛いよかん配付

受験シーズンを迎え、学習塾の寺小屋グループ（本部＝松山市）は、「愛媛いよかん＝いい予感」という合格の縁起物として伊予柑を配付し、受験生を応援しました。

この取り組みは、同塾が、受験を控えた大事な時期にビタミンCの豊富な伊予柑で風邪を予防してもらおうと思ひも込めて、大晦日から1月3日にかけて開催する「年末年始集中特訓」に参加している受験生を対象に実施しています。J A全農えひめは、「がんばれ受験生！『愛媛いよかん』＝“いい予感”」をコンセプトに消費宣伝活動の一環として協賛し、4年目を迎えました。

今回は、同塾の県内外16教場の年末年始集中特訓に参加した受験生1,840人に、袋に五角（合格）形のシールを貼り付けた伊予柑を配付しま



した。

松山市湊町の市駅教場では、12月31日、職員が中学・高校の受験を控えた155人に、「気持ちが大事。いい予感を持って受験に臨んで」と激励し伊予柑を手渡し、受験生は、「いい予感もらえそう」と伊予柑を見ながら気を引き締めていました。

湯島天神で合格祈願「愛媛いよかん」3,000個配布

J A全農えひめ青果販売課は、「がんばれ受験生！『愛媛いよかん』＝“いい予感”」をコンセプトに、今年も大学センター試験を控えた1月13日（日）、東京文京区の湯島天神の境内で、お祓いを受けた「愛媛いよかん」（1個・袋入り）を、合格祈願の参拝者先着3,000人に無料配布しました。

この取り組みは、「愛媛いよかん＝いい予感」という合格の縁起物として、またビタミンCがたっぷりの伊予柑で受験を控えた大事な時期に風邪を予防してもらおうと、毎年実施しており、今回で28回目。

湯島天神では受験シーズンの恒例行事になっており、「合格まで風邪をひかずに頑張ろう。愛媛いよかん＝いい予感」の天幕の下で、かす



り姿の女性らが、参拝される受験生やその家族に愛媛いよかんを配布しました。

なお、1月14日（月）には、福島稲荷神社（福島市）では、J A全農えひめが協賛して2,000人に愛媛いよかんを配布しました。

●平成24年度「愛媛県くり品評会」表彰式

立木・果実部門とも農林水産大臣賞に萬奥修一さん

J A全農えひめと愛媛県くり研究同志会は、12月17日、平成24年度「愛媛県くり品評会表彰式」を開き、立木・果実部門とも農林水産大臣賞の萬奥修一さん（J A愛媛たいき）をはじめ入賞者を表彰しました。

今年度の品評会には、立木部門に12園地、果実部門に46点が出品され、立木部門は樹勢、整枝せん定、土壌管理など、果実部門は果実の形状や玉揃いなどを総合的に審査した結果、各賞が決まりました。

その他の受賞者は次の皆さんです（敬称略・カッコはJ A名）。

【立木部門】▽県知事賞＝三ツ井守恵（えひめ中央）▽全農愛媛県本部長賞＝三滝清（ひがしうわ）▽くり研究同志会長賞＝長田直一（えひめ中央）、池田一義（愛媛たいき）、佐野嘉浩（同）

【果実部門】▽知事賞＝三ツ井久一（えひめ中央）▽全農愛媛県本部長賞＝井上多美子（同）、▽くり研究同志会長賞＝岡崎良一（ひがしうわ）、西本和明（愛媛たいき）、和田清光（えひめ中央）

なお、12月13日、J A全農えひめ青果販売課

は、「平成24年産栗販売反省会」を開き、愛媛県が全国第3位の生産を誇る栗の販売総括を行いました。24年産販売は、全国的な生育遅れで9月中旬まで市場入荷量が少なく品薄となったこと、安全・安心面で業務筋から愛媛産等の引き合いが強かったこと等により、9月まで高単価で推移。10月も弱含みの相場展開の中で、加工と市場出荷量を調整し、高値販売を維持。市場向け販売実績は483 t（前年比108%）、kg単価は722円（同102%）と数量増の単価高で終了しました。

愛媛県くり品評会表彰式



▲農林水産大臣賞の萬奥さん

●社会貢献活動

児童福祉施設にいちご・もち米・ジュースを贈呈

J A愛媛野菜生産者組織協議会とJ A全農えひめは、社会貢献活動の一環として、児童福祉施設の児童らに楽しいクリスマスを迎えてもらおうと、12月22日、市内3か所の施設に旬の愛媛県産いちご300パックをプレゼントしました。

松山市東本の児童養護施設・愛媛慈恵会には、J A全農えひめ武田孝二青果販売課長らが訪問し、「寒くなって来ましたが、いっぱい食べて風邪をひかないで元気に頑張ってください」とイチゴ108パックを手渡しました。

児童を代表して高橋ゆかさん（12歳）から、「甘くてとても美味しいイチゴがクリスマスケーキの上ののっているのが楽しみです。小さな体に元気がたくさん詰まっているイチゴのように私たちも元気に過ごしたい」とお礼の言葉がありました。子どもたちはさっそく試食し、「美味しい」と嬉しそうに口一杯に頬張っていました。愛媛慈恵会では、12月23日にイチゴを使ってクリスマスパーティーを開くということでした。

なお、J A全農えひめでは、愛媛県社会福祉協議会を通じて、県内計14か所の児童福祉施設に、『ひめライス・もち米』計710kg、『POMみかんジュース』など計75ケースを贈りました。

このプレゼントは、J A全農えひめが昭和59年から、J A愛媛野菜生産者組織協議会は昭和62年から毎年行っています。



●JAグリーンえひめ

「13周年創業祭」と「七草粥お接待」が好評でした

東温市北野田にある農産物直売所「JAグリーンえひめ・フレッシュ市」は、12月21日（金）～23日（日）まで、「創業13周年大感謝祭」を開催しました。

期間中は、2,000円以上お買い上げの方に、抽選で伊予牛「絹の味」やかずのこ、お米などが当たる「お楽しみ大抽選会」（空クジなし）を実施したほか、出荷会員による甘酒お接待や杵つき餅実演販売、「たまごのつかみどり」「ウィンナーつかみどり」など日替わりのお買い得企画を実施。大勢のお客様で賑わいました。



また、JAグリーンでは、1月6日（日）、出荷会員が地元でとれた七草を「七草粥」にして来店客をお接待しました。

「七草粥」のお接待は、JAグリーンえひめが地域の消費者との交流イベントとして毎年実施している恒例の行事です。

当日は、出荷会員が早朝から大鍋で地元産の「七草粥」を作り、お客様に無料で約300食をふるまいました。

七草粥を食べた方は、あたたかい季節の風物詩に笑顔を見せていました。



●1月14日は「いい予感の日」

愛媛いよかん大使らが伊予柑はじめ柑橘をPR！

1月14日＝語呂合わせで「いい予感」の日。JA全農えひめは、「愛媛いよかん＝いい予感」をコンセプトに、全国の9割の生産量を誇る特産の伊予柑の消費拡大に向けて、愛媛いよかん大使らが伊予郡松前町のエミフルMASAKIで、試食販促活動を行いました。

愛媛いよかん大使の村上侑加さんが、伊予柑の試食のほか、愛媛いよかんをその場で搾りジュースにして飲む消費提案・PRを行い受験を控え合格の縁起物として、また風邪の予防にビタミンCがたっぷりの伊予柑シーズン到来をアピールしました。

JA全農えひめでは、11月3日（みかんの日）をスタートに、1月14日（いい予感＝恋の兆し）、2月14日（愛を届け）、3月14日（愛に応え）、4月14日（愛を深める）といったストーリー性



を持たせ、「愛のシンボル」であるオレンジを「4月14日・オレンジデー」まで記念日ごとに旬の柑橘を贈り合う「愛のオレンジロード」の取り組みを進めています。

なんでもBOX

第42回日本農業賞県代表に「(有)菊間仙高牧場」

第42回日本農業賞の愛媛県代表の表彰式（主催：J A 愛媛中央会・NHK松山放送局）が、12月19日、松山市のJ A 愛媛で開かれ、集团組織の部で「(有)菊間仙高牧場」（代表＝森田恭章社長、今治市）が表彰されました。

同賞は、日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善と発展に取り組み、地域社会に多大な貢献をされている農業経営体を表彰するものです。

(有)菊間仙高牧場は、20～60代の社員16人で年間2万5,000頭の出荷をめざし養豚経営を行っています。繁殖率の向上とコスト削減に向けて県内初の人工受精技術の導入、地元の柑橘農家と連携した堆肥の供給、県内最先端の污水处理施設を活用し豚舎内の清掃用の水として再利用す

るなど環境保全型農業を実践しています。また、社員の高い専門知識と技術習得をめざし飼育ステージ別に担当制を導入し、後継者・人材育成にも力を注いでいる点などが評価されました。



▲表彰状を受け取る菊間仙高牧場の森田社長

●大街道マルシェに出店 地元消費者にいちごなど旬の県内産青果物をPR

J A 全農えひめとJ A 愛媛野菜生産者組織協議会は、12月22日、松山市の大街道商店街で行われた「大街道マルシェ」に出店。旬を迎えたいちごの「あまおとめ」と生椎茸、ミニトマトを販売しアピールしました。

大街道マルシェは、地産地消の推進や商店街の活性化などを目的に、「えひめ愛フード推進機構」が取り組んでいるもの。

出店したブースでは、J A ひがしうわの生産者と職員、J A 全農えひめ職員が、「あまおとめ」の試食を交え、旬の県内産農産物の美味しさをアピールしました。





インフォメーション

おいでな菜家ゆやま

- TEL/089-977-4180
- 営/9:00~19:00
- 休/毎週日曜(年末は除く)
- 住/松山市溝辺町甲385
- URL/ <http://www.matsuyamaseikyo.co.jp/store/cat15/>

さいや
おいでな菜家ゆやま ~ (株)松山生協 ~

高鮮度で好感触。毎日の食材が、近くで買える地元のマルシェ



▲JA松山市湯山支所が隣接。一度に用が済ませて便利

「おいでな菜家」はスーパーマーケット「松山生協」(JA松山市子会社)をリニューアルし、スーパーの良さはそのままに、生産者が持ち込む農産物を中心とする生鮮食品を販売する産直型の店舗です。商品を出荷するのは松山市を中心とする会員約300名。丹念に育てられた農産物やこだわりの加工品が生産者の名前入りで並びます。地元の旬の野菜が出そろい、新鮮で、安心・安全、市価より安いのも魅力です。地元産で調達できないものは市場から入荷して、お客様の満足のいく品ぞろえを心がけて店舗を運営しています。



▲入口の真正面に位置し、最初に目に飛び込んでくる生産者コーナー

絶品山の幸も見逃せない

「おいでな菜家ゆやま」は平成22年8月にリニューアルした約100坪の売り場面積を持つ2号店です。季節の移ろいのままに多くの農産物が並び、折々の食材を求めて、幅広い客層の方々が来店されます。特筆は地元・湯山地区でとれるやわらかくてエグミの少ないタケノコです。おいしい春の味を地元で味わう、これぞ地産地消の醍醐味です。



▲もう出ている菜の花



▲人気の手づくり梅干し。大粒・小粒どちらも、250gで250円



▲湯山産のタケノコ。今年も奥道後で「たけのこまつり」を開催

地元の栄光酒造のお酒もあるよ



小倉 良太さん
(おいでな菜家ゆやま 店長)

「ゆやま店では、湯山地区の活性化や、お客様も生産者もみんなを交えた笑顔のあるコミュニケーションを大切に、販売に努めてまいりたいと考えています。出荷者も募集しています」



【ピンポイントmap】



**人気の「生産者コーナー」を
よろしく**

スーパーマーケット松山生協の石井店、余土店、西雄郡店、斎院店、三津店、久米店、椿店、堀江店(以上松山市)、北伊予店、岡田店(以上伊予郡松前町)、川上店(東温市)の11店舗でも生産者コーナーを展開しています。のぞいてみてくださいね。



インフォメーション

おいでな菜家ひさえだ

- Tel/089-924-0968
- 営/9:00~19:00
- 休/無休
- 住/松山市西長戸町916
- URL/http://www.matsuyamaseiky.co.jp/store/cat6/

さいや おいでな菜家ひさえだ ~ (株)松山生協 ~

他に類を見ない、直売所とスーパーのいいとこどりです! 1号店



▲おいでな菜家は両店ともに柱が一本もなく、商品群は間仕切りのない同じ高さの平台に並べられ、見通しがきき、開放感、安心感を与えてくれる



▲「おいでな菜家では、お客様の反応がリアルにわかり、名前をおぼえてもらえたり。売り切れると、またガンバロウという励みになります」と、元氣いっぱい森田さん



▲「サラリーマンから退職後に一念奮起の野菜づくり10年の素人です」と謙遜しつつも、笑顔がすべてを物語っていますよ、林さん!



客野 亮治さん
(おいでな菜家ひさえだ 店長)

「朝採れ冬野菜のごく一部をチョイスしてみました。イキイキ、新鮮な野菜ばかりです。曜日によりお買い得商品や特典なども設けてお待ちしております」



▲おふくろの味が詰まった惣菜や弁当類も充実

がぁえば京野菜の聖護院大根など珍しいものが手に入るかも。また年間を通して需要のあるシキビは質の良さで安定した人気です。お彼岸の時期などはさらに充実した品ぞろえとなっています。

「おいでな菜家ひさえだ」は売り場面積約150坪、平成21年9月にリニューアルした1号店です。久枝地区は古くからの農業地帯、柑橘栽培も盛んです。今からの時期は伊予柑や中晩柑類、菜の花、新タマネギなど、春を先取りする農産物がどんどん登場してきます。産直店のもう一つのお楽しみは、市場に回らない農産物との出会いでもあります。タイミング

毎日の買い物が
もっと楽しい

品

赤ちゃんのほっぺみたい、つきたての餅

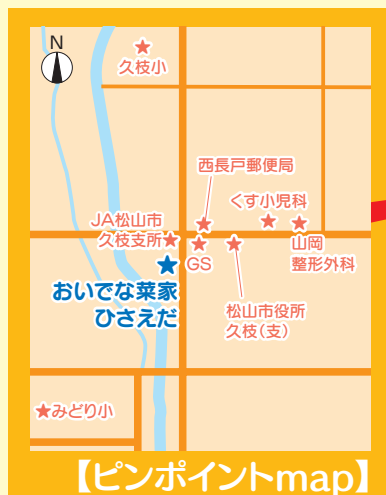
「おいでな菜家ひさえだ」の餅製造コーナーの朝は早く、毎朝5時から蒸気がたちのぼる餅づくりが始まっています。県内産の餅米を使用した、すや餅、よもぎ餅、あん入り餅、おはぎは、午前中のお求めがおススメです。まだやわらかくてあたたかい、格別のおいしさなのですから。



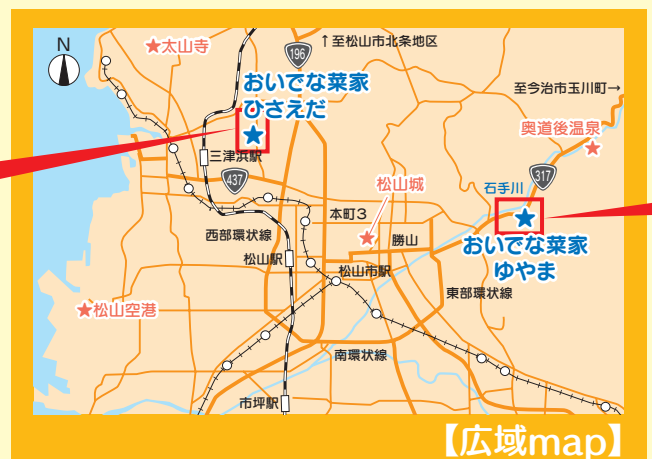
▲あんこたっぷり、手づくりおはぎで至福のひとときを



▲人がまだ寝静まっている頃に、餅づくりはフル稼働。「おいしくな〜れと、気持ちを込めてつくっています」と責任者の林辰郎さん



【ピンポイントmap】



【広域map】

NOW NOW

COOKING

今月の素材

白ネギ



鍋に、薬味に、食欲増進、殺菌作用と、
独特の存在感で、異彩を放つ冬野菜

▶ (左) 白ネギの炒め物 (前) 白ネギのマリネ (右) 白ネギナムル



指導／学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

白ネギの炒め物

〈材料・4人分〉	※1人あたり約202kcal
白ネギ	3本
ベーコン	100g
卵	3個
ごま油	適量
塩	少々
コショウ	少々

〈作り方〉

- ① 白ネギ (青い部分まで) は斜め切りにし、ベーコンは2cm幅に切る。卵は割りほぐしておく。
- ② フライパンにごま油大さじ1を熱し、卵をぎゅぐゅと炒めて取り出す。
- ③ ②のフライパンにごま油小さじ1を足し、①の白ネギとベーコンを炒め、塩・コショウをして②を戻し、炒め合わせる。

白ネギのマリネ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約115kcal
白ネギ	4本
人参	5cm
スープ	3カップ
ローリエ	小1枚
酢	大さじ1
オリーブ油	大さじ3
塩	小さじ1/3
粒マスタード	小さじ1

〈作り方〉

- ① 白ネギは5cm程度の長さに、人参は7mm角に切る。
- ② ①の材料を混ぜ合わせ、マリネ液をつくる。
- ③ 鍋に①を並べ、スープとローリエを加えて蓋をし、30分間煮込む。
- ④ ③の汁気を切り、熱いうちに②をかける。

白ネギナムル

〈材料・4人分〉	※1人あたり約74kcal
白ネギ	2本
砂糖	小さじ1
塩	少々
コショウ	少々
ごま油	小さじ2

〈作り方〉

- ① 白ネギは芯を除き、繊維に沿って細く切る。
- ② ①を耐熱容器に入れてラップをし、電子レンジに2分強かける。
- ③ ②に砂糖と塩・コショウをなじませ、ごま油をまぶす。好みで一味唐辛子をかける。

※除いた芯はスープなどに利用を。

つぶの喉越しがたまらない♪ 本格派のみかん飲料

POM つぶつぶ愛媛みかん

愛媛県で、愛情を込めて大切に育てられた
みかんのつぶと果汁を使用しています。



プチツ
とおいしい♪



350ml 1,000ml

【希望小売価格】
350ml 147円 (税込)

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304 <http://www.ehime-inryo.co.jp>

JA全農えひめ



「ふれ愛・媛ポーク」キャラクターネーミング募集!

たくさんの応募まってるよー♥



名付け親には、な、なんと
賞金10万円 進呈しちゃいます!



プロフィール

生年月日 9ヵ月前
性別 ひみつ
出身地 愛媛県のごくにある
バラダイス
性格 お調子者の甘えん坊
得意技 料理
将来の夢 全国展開!

応募期間

平成25年
1月12日
SAT

2月28日
THU
(最終受付日)

「ふれ愛・媛ポーク」キャラクターネーミング募集 コース

名付け親に、

賞金10万円進呈!



応募方法

応募ハガキ、または郵便ハガキに、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・「ふれ愛・媛ポーク」キャラクターネーミングをご記入の上、下記宛先まで郵送にてご応募ください。
※お一人様何口でもご応募いただけます。

宛先

〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川字北野511-1
JA全農えひめ 畜産販売課
「ふれ愛・媛ポーク」キャラクターネーミング募集! コース 係

当選発表

厳正な審査のうえ優秀賞を決定し、優秀賞に選ばれた方に賞金を送付すると同時に決定したネーミングを店頭、ホームページなどで発表させていただきます。

※注)ご応募の中で採用されたネーミングが複数ある場合は、厳正なる抽選のもと、名付け親になる方を1名決定させて頂きます事をあらかじめご了承ください。

「ふれ愛・媛ポーク」おなかいっぱい コース

A賞

「ふれ愛・媛ポーク」セット

ローススライス (500g)
とんかつ用 (500g)

40名様



B賞

愛媛県産こしひかり 石鎚

(5kg)

60名様



応募方法

「ふれ愛・媛ポーク」商品に付いている認定シール2枚を応募ハガキ、または郵便ハガキに、貼付していただき、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ご利用店舗名・ご希望賞品を記入の上、下記宛先まで郵送にてご応募ください。
※お一人様何口でもご応募いただけます。

これらの認定
シールを貼付
してご応募
ください。



宛先

〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川字北野511-1
JA全農えひめ 畜産販売課
「ふれ愛・媛ポーク」キャラクターネーミング募集!
おなかいっぱいコース 係

当選発表

キャンペーン終了後、厳正なる抽選により、当選者への賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

※プレゼントの発送に日時がかかることがありますので、あらかじめご了承ください。

※応募ハガキにご記入いただきました個人情報は賞品の発送、応募者属性の集計(個人を特定できない統計的データとして用います。)以外、個人を特定した情報として利用することはありません。